

初修フランス語教育における共通教材を用いた

3つの授業実践

Trois mises en pratique de l'enseignement du français élémentaire

avec un matériel pédagogique commun

有富 智世

ARITOMI Chise

Université Tokoha

aritomi?fj.tokoha-u.ac.jp

前田 美樹

MAEDA Miki

Université Konan-Joshi

mikimaeda.2005@forest.ocn.ne.jp

西岡 杏奈

NISHIOKA Anna

Lycée municipal de Miki

jetwoo@hotmail.co.jp

はじめに

フランス語教育は様々な環境で多様な学習者を対象に実施され、高等学校および大学等においても教育現場の状況は多様化を極める。授業者はそれぞれの教育観や学習観に基づき授業内容を組み立て、学習活動の基盤を支える教材を選定する。そして、イメージした学習内容を授業時の実践において実現すべく学習の活性化の工夫を熟慮する。学ぶ側の目的にも合致した学習活動の模索は、フランス語教育に関わる者の共通課題と言えるだろう。

本稿では、教養科目に位置づけられた初修フランス語教育で、平成 25 年度に同一の教材を選び授業実施を行った三者の学習活動報告を呈したい。共通教材は、教科書『なびふらんせ』とデジタル教材「Web 〈なびふらんせ〉」である¹。本教材は語学達成目標を仏検 5 級合格ラインに定め、概ね複合過去までを文法学習範囲としている。デジタル教材は、各課に学習コンテンツ²とテストを備え、このテストと連動して学習記録が自動的に蓄積されるポートフォリオ³も搭載している。

このような特徴を持つ教材を使用し、三者はどのような学習活動を展開したのか。授業者の学習観に立脚する授業実践報告は、我々が日々対峙する「授業形態のあり方」を検討する上で勘案を促す媒体となり得る。自らの授業実践を省み、教育観・学習観へと遡及して再考することが肝要で、多角的に捉え精査を繰り返すことが学習活動そのものを問い直していける道ではないだろうか。

¹ 『なびふらんせ』、有富智世・喜久川功・黒田恵梨子・田母神須美子・服部悦子、長崎出版株式会社、2013。

「Web 〈なびふらんせ〉」（フランス語学習支援デジタル教材）、有富智世・喜久川功、(<http://navifj.jp/>), 2012-2014.

² 7つの学習コンテンツ：「文法」「文法練習問題」「語彙と表現」「動詞活用」「動詞活用練習」「写真と動画」「資料」（これに加え、3課終了毎に総合的な理解度確認ができる「総合問題」のコンテンツも備える）

³ ポートフォリオは、学習過程と習得度を学習者自身が省察しながら語学学習を継続するシステムを成す。（「クラス設定」と「ポートフォリオ・ベストプラクティス」の2機能も含む）

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2014

1. 授業実践①：iPad を使用した高等学校における学習活動（西岡）

平成 25 年度、兵庫県立三木高等学校（選択科目・3 年生・6 名）で実施した学習活動の一例を以下に述べる。（履修に当たり、デジタル教材の ID 登録とクラス登録を要件とした。）

1) iPad の活用

入門クラスでの iPad の活用は、まず異文化理解への導入を行う上で有効的ツールだといえる。初回の授業時にまず iPad をタップでフランスの画像や音声へ手軽にアクセスさせ、検索結果を学習者間で共有した⁴。各自の履修動機に立ち返り、他者の考えを知ることから新たな気づきも相まって、語学学習の目的を明確化することに繋がられた。

2) デジタル教材の「写真と動画」

教科書には 200 枚近くの写真が掲載されている。デジタル教材では各課テーマをさらに細分化し、そこに膨大な数の現地写真が収録されている。各学習者に iPad で閲覧しながら任意で 3 枚選び、理由も発表するよう指示した。写真を選ぶ中で文化事項等に関する質問も活発に出され、教員はこれを利用して解説および補足等を適宜行えた。

3) 対話文と発話演習

iPad から任意に選択した画像等で場面設定を決め、これに合うストーリーの対話文を作成させた。言葉が使われる背景をイメージしつつ語学学習を進めることを意識化させるためである。作成中に質問等が生じた場合は（例：パンの値段等）、iPad を使って調べるよう指導した。（完成した対話文をフランス語で発表するまでが課題）

4) iPad のカメラを使う（撮影と検証）

授業開始時のウォーミングアップ⁵、教科書のミニ会話練習⁶、自己紹介、対話文の発表練習等では、iPad のカメラで互いに撮影を行わせた。発音のみならず発話時の表情や身ぶりなど他者から見た自己のイメージを確認させ、コミュニケーションの問題を総合的に考察する学びも展開できた。

5) 文法の学習

敢えて文法的解説はせずに教科書練習問題を課題とし、教科書の文法ページやデジタル教材を使用して解くよう指示した。文法事項の習得は、生徒自らが法則を探り、浮上する質疑に教員が回答する帰納的方法で学ばせることも可能である。課題解答の際に説明が必要な場合は、iPad でデジタル教材の「文法」を並置参照させ効率よく行った。授業時間を効果的に配分する意味においてもグループワーク等の時間確保が図られた。

⁴ Yahoo France で検索し、フランスのラジオを聴くなど。フランス語練習アプリ等もダウンロードを試みた。ちなみに、三木高校はフランスの高等学校と国際交流があり、自己紹介のための作文やシャンソンの情報検索に iPad の活用を助言した。

⁵ 発話のための準備運動。2 人 1 組でボールを交互に投げ合いながらフランス語で言葉のキャッチボールを行う。ボールを相手に投げながら発話するためには、相手の顔をよく見る必要がある。ボールを投げながら言葉を発することで体の緊張をほぐし、教室で声を出す準備運動にもなる。言葉のリズムや発話のタイミングも取り易くなる。

⁶ 教科書トップページには日常で使う様々な表現が一覧で掲載されている。また、教科書には実用的な表現を声に出して練習する〈言ってみよう〉等のコーナーがある。

6) 学習記録とフィードバック

iPad を用いて学習活動で記録した写真や動画を授業の区切りにフィードバックとして活用した。学習者に学習過程および習得状況のふり返りをさせることは大切で、何をどこまでやったのか、どのように学んでいくべきかを具体的に考えさせることができた。

2. 授業実践②：教科書の特性を生かした大学における学習活動（前田）

平成 25 年度、甲南女子大学の「フランス語演習 I」（教養科目・選択・20 名）で実施した主な学習活動を以下に述べる。（履修に当たり、デジタル教材の ID 登録とクラス登録を要件とした。授業では教科書を中心に学び、授業外ではデジタル教材で復習するよう指導した。）

1) 豊富なパリ情報

教科書『なびふらんせ』は A4 サイズで、従来の教科書サイズに比べて大判である。この特徴を活かして現地写真がカラーで豊富に掲載されている。文化を目で学ぶことも重要で、これらの写真を利用しパリにいるイメージを膨らませ、状況設定を理解してから語彙や会話練習を行うよう指導した⁷。

2) 学習の効率化

教科書裏表紙を捲ると〈フランス語の発音（まとめ）〉が一覧で置かれている。各課の「語彙」を勉強する際は、綴り字と発音の関係をここで必ず確認するよう指示した。頻繁な使用を前提に開き易い位置に掲載のため、授業時も常に参照を促し習慣化させた。

各課の「語彙」にはチェック用の項目欄が設けられている。葉を一枚用いて日本語あるいはフランス語のリスト部分を隠せば、「語彙リスト」を「暗記用シート」として利用できる。授業では、まず葉を使い個別に 3 分間集中して覚え、その後ペアになり互いに質問し合うゲーム形式の中で語彙の習得を行った。学習の効率化に配慮した教科書内部の機能性を授業時の学習活動に上手く結び付けて活性化を図った。

3) 各課の学習項目と繋がり

教科書には、課毎に実用的なミニ会話が掲載されている。特に〈言ってみよう〉は、課のテーマに沿った「語彙」を使って練習するコーナーで、学習課の「文法」を先取りした「表現」にもなっている。このことは、学習課の内部で自由な学び方の提案がなされていることを意味する。「語彙」と「表現」と「文法」を自由に行き来して学び、このベースを活かして基礎固めや発展的学習時に合わせた学習活動のアレンジができた。

4) 文法ページを作る

文法ページは基本的に図式化で示され、学習者が説明を聴きながら空欄を埋めていく記述形式の仕組みを成す。また、写真掲載のカラーページとは異なり、文法ページは薄い青と白の 2 色刷のため、自分で重要度を決めた色分けや加筆を行える。そこで、学習者それぞれが工夫したオリジナル『なびふらんせ』を作りながら学ぶよう指示した。教科書自体に愛着も持たせ、文法ページ（ルール）への注目度を上げる効果が得られた。

⁷ 甲南女子大学では国際交流課が主催する「パリ短期留学研修旅行」（2 週間）に参加希望の学生が、フランス語を受講するケースが多い。研修旅行を具体的にイメージするのに役立ったという意見があった。

5) トップページを活かす

教科書表紙を捲ったトップページには、パリの地図等ではなく〈語彙と表現〉のダイジェスト版および〈フランス語で言ってみよう〉の一覧が置かれている。このトップページで、まずフランス語学習全体を見渡すことができ、また課が進む毎に復習にも利用できる。入門クラスにおけるフランス語学習の「全体」と、少しずつ積み上げる各課での「個」の学びを意識して捉えてもらえるよう毎授業で活用した⁸。

3. 授業実践③：デジタル教材とポートフォリオを導入した学習活動（有富）

平成 25 年度、常葉大学の「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」（教養科目・選択・35 名）で実施した主な学習活動を以下に記す。（履修に当たり、デジタル教材の ID 登録とクラス登録を要件とした。）

1) デジタル教材の「語彙と表現」

授業でデジタル教材の「語彙と表現」⁹を使用し、文字の提示と音声の確認と語彙の暗記を同時に学習させた。学習者を教室前方スクリーンに注視させることができ、発音の注意点を指摘しながら効率よく学ばせることができた。（デジタル教材の「文法」（PDF）に掲載の「語彙リスト」を掲示でも可能。ただし、この場合は iPad 等での使用が有効。）

2) デジタル教材の「文法」「文法練習問題」

デジタル教材の「文法」は、いわばミニ文法参考書に当たる。これを授業では主に iPad を使って導入した。必要に応じて強調したい箇所、見せたい箇所を拡大表示できる。板書の必要もない上、臨機応変な提示が可能なことから、学習者に文法内容を効率よく理解させることができた¹⁰。同様に、デジタル教材の「文法練習問題」¹¹も授業で活用した。問題をスクリーンに提示し、状況に合わせた練習問題の追加を行った¹²。

3) デジタル教材の「動詞」「動詞活用練習」

デジタル教材の「動詞活用」を使い、動詞活用の形態を発音と共にスクリーンに注視させて学ばせ、さらに「動詞活用練習」¹³を使用して問題数を効率よくこなしながら活用語尾等に慣れさせていく練習を行った。これにより授業外にデジタル教材を使って動詞活用の復習を行う学習者が増えた。

4) デジタル教材の「写真と動画」

紙面上の制限を受けないデジタル教材は、多彩な情報を提供可能にすることは言うま

⁸ 毎回の授業の始まりと終わりに、ここから 1~2 ずつ表現を追加して会話練習を行った。授業時において効率よく復習に使えたことから、仏検受験直前の受講生が採を使い語彙や表現の確認に利用していた。

⁹ 仏語から日本語へ、日本語から仏語へと瞬時に移行するいわばカード形式の Web 教材版で、音声も同時に確認できる。

¹⁰ デジタル教材の「文法」を授業時に導入して使用したことから、この「文法」ファイルをプリントアウトして授業に持参し書き込み等を行う、予習・復習に活用する学習者が増えた。

¹¹ 学んだ文法をクイズ感覚で解きながら修得度を高めていく。アクセスする度に問題はシャッフルされる。

¹² さらに追加の応用問題が必要な場合には、「総合問題」のコンテンツで対応した。練習問題を必要に応じて選びスクリーンに掲示。黒板は解答と解説に使用した。

¹³ 「動詞活用練習」はアクセスする度に問題がシャッフルされる。（反復練習に対応）

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2014

でもない。授業ではデジタル教材の「写真と動画」を活用した。iPad で多数の現地写真を効率よく提示し、文化事項の解説や補足を行えた。言語が話されている背景への涵養は教養教育において意義があり、語学の学習意欲を高める効果も見込める。授業では予め見せたい画像を選んでおき、全てを見せてしまわず学習者に「もっと見たい、知りたい」と思わせて自らデジタル教材にアクセスするよう促した（自主学习促進も兼ねる）。

5) ポートフォリオの活用

デジタル教材に学生用 ID でログインし各自のポートフォリオにアクセスすると、表の下部に所属クラスの「先生が選んだポートフォリオ・ベストプラクティス」と「ポートフォリオの参考用デモ版」が搭載されている（他者のポートフォリオを参照して学習過程の見直しに役立てるよう提示）。授業開始時の短時間にこの「ポートフォリオ・ベストプラクティス」機能¹⁴を使い、「クラス設定」機能¹⁵で得た情報から参考となる学習者のポートフォリオを例示してクラスの自主学习状況に対するコメントを行った。授業で学習者全員に授業外の個別学習状況をフィードバックすることで、学習者間に学びの共有が図られ、他者の学び方を参考にする者が増えた結果、クラス全体のポートフォリオの質が向上した。

おわりに

初修フランス語教育で同一教材を使用して実施した3つの授業実践を概要した。教養教育科目のフランス語入門クラスという共通条件での実施であったが、それぞれの内容から同じ教科書（教材）を定めても運用が三者三様であったことが分かる。

本授業実践報告で対象とした受講者は、主にフランスの歴史・文化・生活等への興味や関心からフランス語の授業を選択したという者が多い。学習者の期待に応じて学習意欲を高めつつ、語学学習と異文化理解を連関させた学習活動の模索が今後も共通課題として挙げられる。また、語学学習の第一段階を着実に修得させ、さらにフランス語の豊かな世界へと歩みを進めてもらうために、授業時から自主学习を促進し、限られた時間数で受講者の理解を揃えて導く工夫も問われる。この現状において、学びのツールである教材が果たす役割はやはり大きい。教材は制作した著者の教育観や学習観が表されたものであり、使い手は何らかの共感をもってその選択に至る。フランス語をどのように教え、何を学ばせたいかという授業者の考えが教材の創り手と融合し、そこから教材の新たな活用が期待される。対面授業と授業外の自主学习、自主学习を経てまた再開される対面授業、学習者にこのような学習の繋がりを明確に感じさせ導くには、選定した教材を基軸にどのような学習活動を行えるかが要となる。教育観や学習観を形にした教科書（教材）の研究例、他者の授業実践例、これらを広く取り込みながら自己の教育指導をふり返り、新たな試みと精査を重ねていくことが必要ではないか。

¹⁴ 「ポートフォリオ・ベストプラクティス」は、ある学習者のポートフォリオを氏名・学籍番号等を匿名にして保管し、他者に公開可能なフォーマットで提示する機能である。授業前に予め選択し保管しておいた学習者のポートフォリオを、授業を共有する他の学習者に提示でき、学習過程の見直しに繋がれる。

¹⁵ 「クラス設定」機能は、教員が学習状況を集約的に得て授業に反映できる機能で、個別対応やクラス単位の現状把握に利用できる。